
携帯物語

立花透琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

携帯物語

【Zコード】

Z8502L

【作者名】

立花透琉

【あらすじ】

目が覚めると、携帯電話が人間になつてた？！

携帯電話擬人化です

(前書き)

携帯擬人化の話です。
ご注意ください

人は非現実な出来事に出会うと、どうなるのか…

例えば、悲鳴をあげるとか
動きが止まるとか
現実逃避してしまうとか…

大概そんなものかと思う

大体…非現実な事なんて、そつそつ起こるものでもないのだ

ふと、目が覚める。

毎日の生活リズムとは恐ろしいもので
それが平日だらうが休日だらうが、自然と目が覚めてしまつ。

目覚めるのはアラームが鳴る直前位。
いつも、アラームがなるまでじろじろして
アラームが鳴つたら起きる生活。

だって、布団から出るのは億劫だから…

ぎつぎりまで寝ていたいというのは、誰しも思つことだと思つ。

今朝も、ぼんやりと天井を眺め、それから寝返りを打つて
携帯のアラームが鳴るのを待つ。

大好きなアーティストの音楽が流れ（鳴っちゃった…）と身体を起す。

枕元を見ず、いつものように携帯を取る。

そして、フリップを開けて携帯を止めよ!ついで

ପାତ୍ରିକା

止め

「はよ、マスター」

手の中あつたのは…携帯?

「あーい、起きてんのか？マスター」

攜帶：

だつたはずなんだけどな

「いつまで俺を握り締めてんだつてんだつ」

手の中にあつたのは、携帯ではなく小さなお人形？
と、いうか…人形もしゃべらないと思つけど…

その”人形”は、私の手の中でぎやんぎやん騒いでいる。

髪は赤と黒のMIX。

無造作に跳ねた少し長めの髪から覗く瞳は勝気そうな切れ長のグレ
ー。

「マスター！！聞いてんのかつ」

「…あ…やだなあ。まだ頭が寝てるのかなあ」

そういうや、昨夜はなんだかんだと寝る時間も遅かつた。

「それより、携帯…携帯つと。どこにやつたのかな～」
人形を枕元に戻すと、布団から出て携帯を探す。

その私のパジャマの裾を、先ほどの人形がツンツンと引っ張つてくれる。

「…」

「…はあ？」

「俺。W53CA」

ムツとしながら自分を指差す人形。

「俺がマスターの携帯」

「…」

寝起きの頭に、そんな突拍子のない事を言われて
素直に「そうなんだ～」とか言えない。
寝起きじやなかつたとしても、意味不明。

「…人形が何しゃべつてるのさ」

「人形じやなくて携帯だつつの」

「携帯はしゃべつたりしないし…。大体人の形してないし…」

理路整然と常識を述べてみる。

しかし、田の前の人形には無意味だつたらしい。

「そろそろ現実見たら？俺がマスターの携帯。
信じなくとも、それが現実なんだから諦めろつて」

仮に…こいつが私の携帯だたとしよう。

なんで、こんなに口が悪いのさ。

「あんたね…ちっちゃいくせして、態度でかすぎ」
私は諦めたように人形の前にあぐらをかくと
その髪の毛を引っ張る。

「いてえ…！なんだよ、ちっちゃいってのが不満かよつ」
そう言うと、携帯（だと言つてる人形？）は
ピヨンシと跳ねると…私の口に軽くキスをして…

「え、え…えええええ…！」

私は田の前の状況に絶叫せざるを得なかつた。

「これで態度がでかくつても文句ねえだろ？」
「ヤツと笑うのは、私よりも背が高い…男性。

雰囲気からすると…やつきの携帯電話のようすで…
「で、マスター。 そろそろ時間危ういんじゃねえの?」
そう言われて、ハタツと我に返る。

携帯電話が人形みたいだつたとか
それが大きくなつたとか…
そもそも、しゃべつてるつてどういう事なのかとか
考えなきゃいけない事は沢山あるが
時間は無常にも過ぎていく。

私は慌ててロフトを降り、身支度を整えよつとするが…

「あ、言つ忘れ。 今日は祝日だから」
ロフトから、のほ～んとした声がする。
「…しゅ…ぐじつうう…！」
「そ、仕事は休み。 アラームかけてたから何か用事があるのかと
時間を教えてだけだけど?」

ロフトから見下ろしてこつちを見る携帯野郎に
私は何も言えずがつくつと頃垂れた。

(後書き)

友人が携帯擬人化を書いていて、触発されました。
結構楽しかったのですが、難しくもありました
他の話を書いてみたいなあとは思つたんですが、実現できません。
読んでくださつてありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n85021/>

携帯物語

2010年10月10日05時23分発行